

令和5年2月1日

政務活動研修報告書

下記のとおり、研修会等に参加しましたので、宍粟市議会政務活動費の使途に関する要領第6（7）の規定により報告します。

記

1. 研修日時	令和5年1月29日
2. 研修先	加西市北条町古坂1-1 加西市民会館
3. 研修参加者	政策研究グループグローバルしそ（大畑利明・前田佳重）
4. 主催者	協働による地方創生都市の実現に関する研究会
5. 講師等の氏名及び略歴	（講師氏名及び演題等を記載） 基調講演「気候変動問題と地域創生」兵庫大学 副学長 田端和彦氏 行政の環境対策 ・兵庫県環境部長 菅範昭氏 ・加西市長 西村和平氏 市民・学生の取組み ・九会地区ふるさと創造会議 ・北条高校 ・夢前高校
6. 研修目的	脱炭素社会先行地域の取組み
研修内容	<p>* 基調講演 1、「気候変動問題と地域創生」</p> <p>* 行政における環境対策への取組み 1、脱炭素社会に向けた兵庫県の取組み 2、加西市の脱炭素先行地域としての取組み</p> <p>* 市民・学生の環境対策への取組み 1、「ペットボトルツリー制作と地域の活性化」九会地区ふるさと創造会議 2、「希少種の宝庫「あびき湿原」を守りつづける」北条高校自然科学部 3、「気候変動×楽しさ～主体性が切り拓く未来～」夢前高校 向山遥温氏</p> <p>* 意見交換会</p>

<p>考 察</p>	<p>(研修を通して宍粟市における可能性や問題点などを考察する)</p> <p>*加西市脱炭素先行地域の取組み概要</p> <p>【脱炭素先行地域の対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九会北部地区の上宮木町、下宮木町、下宮木村町の3町 ・加西市内の全ての市公共施設 <p>【主なエネルギー需要家】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代型スマートタウンの次世代 ZEH+の新築戸建住宅 40戸 ・宮木3町の既存戸建住宅 200戸 ・加西市内の全ての市公共施設 99施設 <p>【取組の全体像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加西南部に位置する九会北部地区において、子育て世代をターゲットに次世代型スマートタウン（ZEH+住宅 40戸）を新規開発する。次世代型スマートタウンと隣接5公共施設はスマートグリッド化し、高齢世帯の多い既存住宅 200戸を含めて、ため池ソーラーからの電力を蓄電池の活用により自家消費率 70%で提供することで、脱炭素化のまちづくりをめざし、このエリアの定住促進と地域経済の活性化の同時解決を実現する。 ・主要公共施設のスマートグリッド化や、避難施設に指定されている全ての公共施設の脱炭素化をすすめ、市内を縦断する活断層による震災リスク軽減を図る。 ・市が関与する地域エネルギー会社を設立することで、行政施策と連動した脱炭素化事業を推進するだけでなくエネルギー代金の域内循環を実現する。将来的には、その利益を基に市民生活に寄与するサービス提供をめざす。 <p>*宍粟市が進める環境施策の参考になった点</p> <p>私たちの会派は、ゼロカーボンシティの取組みを通じて、地域経済の域内循環が生まれ、人口減少や雇用創出など地域課題の同時解決を図る施策の普及推進を求めており、加西市の取組みは大変参考になった。</p> <p>西村市長の報告から、加西市の先行地域の取組みは、地域経済、防災、暮らしの質の向上など地域課題の解決と結びつきながら、さらに地域エネルギー会社を設立することにより、単に再エネによる電力の地産地消を実現するだけでなく、これまで域外に流出していたエネルギー代金が地域内で循環することで生まれる利益から新たな市民サービスを提供する等、地域経済の更なる活性化や雇用の確保など、町の将来を見据えた覚悟が伺えた。トップのリーダーシップの重要性を再認識した。</p> <p>宍粟市においても、脱炭素先行地域または脱炭素モデル地区を設け、再エネによる電力の地産地消の実現と地域内経済循環の取組みを進めてほしい。また、すべての公共施設の電力や熱源などの脱炭素化や公共施設の木造建築を進め炭素の固定に努められたい。</p> <p>また、加西市は、民生部門だけでなく、産業部門の脱炭素化を進めるため、令和5年度当初予算に3億円を計上していることも参考にすべき点である。</p>
------------	---

【写真】（可能であれば添付）

